



ご家族・お友達をお誘いのうえ気軽にご来館下さい！

## 子ども写真教室

7月23日(水) 10:30~12:00

場所 4階視聴覚ホール

講師 庄司 博彦 氏

内容 地球が教室~みんなのフォトメッセージ~

対象 小学生(3年生以上)とその保護者

定員 30組

**\*お申込み必要**

## 夏休みわくわく図書館

8月7日(木) 午前の部 9:30~12:00 / 午後の部 12:30~14:30

場所 4階講座室・視聴覚ホール

当日直接会場へ(先着200人)

内容 「人形劇」「お話の部屋」「工作の部屋」「展示の部屋」…楽しい部屋がいっぱい!

## 夏休み企画展

7月25日(金)~8月24日(日)

場所 4階展示ホール

協力 ぬまづ子どもの本を学ぶ会

内容 幼稚園・学校・地域で子どもたちに読んでいる本を展示します

『この本よんでもらったよ』

~子どもたちとたのしんだ絵本・物語~

## ビデオ上映会

場所 4階視聴覚ホール

定員 200人

子ども向け 14:00~

7月27日(日) 『ちゅうらうみ』

上映時間 74分

8月 3日(日) 『PIPI とべないホテル』

90分

8月10日(日) 『子どもたちが伝える昔ばなし』

70分



大人向け 18:30~

8月 1日(金) 『審理』

上映時間 60分

8月 8日(金) 『武器よさらば』

78分

8月 15日(金) 『氷雪の門 ~樺太1945年夏~』

120分

◎広報ぬまづ・館内ポスター・チラシ等もあわせてご覧ください

## 開館日のお知らせ

平成20年 7月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

平成20年 8月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

平成20年 9月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

…《休館日》

開館時間

火・水・木

……………

午前9時30分~午後6時30分

金

……………

午前9時30分~午後9時

土・日・祝日・振替休日

……

午前9時30分~午後5時

# みなさんの調べもののお手伝いをします。

「調べたいことがあるけれど、どの本を見たらよいか分からない」「探している本があるけれど、どの本棚にあるかわからない」という方もいると思います。図書館では、レファレンスサービスとして、みなさんの探したい、調べたい、のお手伝いもしています。

また、利用者から寄せられた質問を、図書館にある資料をもとにお答えもしています。その一例を紹介します。

「どうして日本には毎年“梅雨”があるのですか？」

知らない言葉を調べるときに使われる『国語辞典（小学館）』で“梅雨”を調べてみると、「夏至を中心とした前後それぞれ、およそ20日ずつの雨季。また、その時期の雨。北海道をのぞく日本、揚子江流域、朝鮮南部に特有のもの」とあります。でも、どうして毎年“梅雨”という時期がやってくるかということについては、書いてありませんでした。

次に、天気に関することなので、『気象の事典（平凡社版）』で調べてみると、“梅雨（ばいう）”の説明をしているところに、“つゆ”ともいう。太陰暦では、梅雨の時期が5月にあたるので五月雨（さみだれ）といった。梅雨は東アジアだけにみられる雨季で、6月上旬より7月上旬にかけて日本の南岸から中国の長江流域にかけて梅雨前線が停滞して長雨を降らせる現象である。」とありました。こちらには、梅雨時の天気図などとともに詳しい解説が加えられていました。これなら、気象にある程度の知識のある人はわかると思います。でも、少し難しい感じもします。もう少し、やさしく説明している本はないでしょうか？



児童図書の『天気のおもしろい（学習研究社）』という本で調べてみると、「どうして梅雨はあるの？」という質問の中に、イラスト入りで解説がありました。そこには、「6月から7月にかけて、太平洋の小笠原気団が日本列島のほうに広がりはじめる。いっぽうオホーツク海から三陸沖、日本海にかけてはオホーツク海気団が張り出していて、南からのあたたかくしめった空気と北からの冷たくしめった空気のぶつかったところが日本列島にそうようにできます。それが梅雨前線で、そこにはインドのほうからふいてくる季節風によってたくさんの湿った空気が運ばれてくるので、このため梅雨の時期には長い雨が降る」とありました。

このように、同じ“梅雨”の説明でも、本によって説明の違いやいろいろな解説があります。

また、なぜ“梅雨”という字を書くのかということについては、『語源事典（東京堂出版）』によると、「梅の実のなるころに降る雨から“梅雨”の字をあてる。また、黴（カビ）が生えやすい時期の雨から“黴雨”の字をあてることもある」とあり、これが“梅雨”という字の由来のようです。

図書館には一般図書の他、子ども向けの児童図書、辞書や辞典などの参考図書、郷土資料等があります。この他にも過去に発行された新聞や雑誌があり、館内のインターネット端末でも調べることができます。分からないことがありましたら、お気軽にカウンターの図書館職員に声をかけてください。



# ヤングアダルトってご存知ですか？



自分自身では、もう「子ども」ではないと思うのですが、周囲からはまだ大人とは認めてもらえない時期のことをいいます。この時期は、大人なら、誰でも思い当たることがあるかと思いますが、いろいろな悩みが多い時。それでいて、大人に対する不信感や反発もあり、素直に親や先生などという身近な大人に相談することのできない人も多いかと思いますが。本を読んで、すべての悩みが解決するとはいえませんが、それでも、多くの本を読むことで、主人公達に感動したり共感したり、あるいは反発したりして、多くのことを得ることができるのではないかと思います。

図書館では、この世代の方々のために児童室に「ヤングアダルトコーナー」があります。

一昨年の秋に、たった一つの小さな移動式の本棚で始まったコーナーですが、今ではだいぶ本も多くなりました。

今回はそのヤングアダルトコーナーから、お薦めの本を少しご紹介します。

那須田淳著 「ペーターという名のオオカミ」 小峰書店

ドイツが舞台です。親の身勝手さに腹を立て、家出した亮は、野生動物研究所のオオカミが逃げ出したという事件に巻き込まれます。群れからはぐれた子オオカミを、故郷の森へ向かっている群れに戻そうとします。

香月日輪著 「妖怪アパートの幽雅な日常」 1～8巻まで既刊 講談社

中学1年のときに両親を失い、高校入学を機にアパートで一人暮らしを始めたタ土(ゆうし)ですが、そのアパートの住人はなんと妖怪たちだったのです！タ土は、そんな同居人たちから自分で考えること、固定観念にとらわれないこと、人と人が関わり合うことの大切さなどを、さまざまな事柄を通して学んでいきます。8巻ではタ土も、もう高校三年生。子どもから大人まで、ファンが多いシリーズです。

エレナ・エスティス著 石井桃子訳 「百まいのドレス」 岩波書店

貧しいポーランド人のワンダは、いつもすみの席でじっと座っているような子です。ところがある朝「あたし、ドレスを百まい持っているの」と言ってしまったことから、みんなからかわれるようになってしまいました。どんなところでも、どんな人にでも、起こりうる差別の問題がテーマになっている本です。

## おはなしフェスティバルが開催されました！



6月14日土曜日、今年もおはなしフェスティバルが開催されました。みんなでおめんを作ったり、ボランティアのみなさんによるおはなしや朗読劇を観たりして楽しいひとときを過ごしました。

12月にはクリスマスおはなしフェスティバルが今年もあります。

お友だちがたくさん来てくれるのを待っていますね！



【写真】沼津の風景/明治22年頃

## 「人智を啓<sup>ケイ</sup>発<sup>ハツ</sup>し文化を誘進するは 書籍館より善きは莫<sup>ナ</sup>し」

(沼津文庫設立趣旨書冒頭より抜粋)

### ～沼津文庫 その1～

日本で最初の近代的な図書館が作られたのは今から136年前の明治5年(1872)、旧幕府から政府が引き継いだ書籍類を一か所に集め、一般公開するために文部省が設置した「書籍館」(しよじゃくかん)だと言われています。その「書籍館」が開館してから16年後の明治21年(1888)、沼津でも「沼津文庫」が誕生します。今回はその「沼津文庫」についてご紹介します。

明治10年(1877)、沼津学校(のちの尋常小学校)の副校長であった間宮喜十郎氏は上記の「書籍館」と同様の施設を沼津に作ろうと数名の仲間と計画しましたが、この時は実現には至りませんでした。しかし出版社や旧幕臣からの寄贈を募ったり、自身の蔵書を投入するなど本を集め、学校の一室にそれらの本を設置、施設開設に向けて着々と準備を進めていました。

11年後の明治21年(1888)、前年に同学校の校長に就任していた間宮氏は再び施設の設置を計画します。7月6日に沼津本町外三ヶ町戸長の山形敬雄氏が静岡県知事宛てに設置の伺いを出し、同月28日付で認可されました。山形氏と間宮氏が発起人となり、8月に「沼津尋常小学校附属沼津文庫設立趣旨」を発表、10月10日沼津尋常小学校内の一室に「沼津文庫」が開設されました。

実際にどのように運営されたのかは資料が残っていないため不明ですが、県知事宛てに出された「沼津文庫設置の儀に付伺」には次のような運営方針が記されています。

- 開館時間は毎日午前8時開館から午後5時まで
- 12月26日から1月7日までと毎月第一月曜日は休館
- 看守人と書記を1人ずつ置き、参観人は看守人に  
族籍姓名を告げ、見料として1人1日1銭を支払うこと
- 施設内では私語・荷物や動物の携帯や持ち込み・喫煙を禁じる

#### ■明治21年当時の物価■

駅弁(握り飯に香の物)…7銭  
かつおぶし1本(200g)…10銭  
コーヒー1杯…1銭5厘

また、設置目的の項には

「和漢洋の書籍を蒐集し<sup>シュウシュウ</sup> 広く衆庶の閲覧に供し<sup>シュウシヨ</sup> 教育の裨補<sup>ヒホ</sup>を謀るものとす」

とあることから、この施設が学校教育関係者だけではなく、広く一般の人々を対象に図書<sup>トクショ</sup>の閲覧を図り、社会教育に力をいれようとしていたことが伺えます。

※おことわり※

前回まで「郷土ゆかりのコーナー」と題し沼津ゆかりの人物を紹介してまいりましたが、今回よりこちらのコーナーでは沼津関係の事柄を紹介していきます。

また、上記で引用した文章の一部は、旧仮名遣いを現代仮名遣いに改めてあります。